令和５年度　自己評価計画に対する最終報告書

石川県立宝達高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1	主体的・継続的に学習に取り組む態度を育み、学力の向上を図る。	①	授業に臨むときの基本的な姿勢や規律ある学習態度の定着を図る。	［教務課］ 進路指導課 各教科 各学年 若手研修 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	「学習規律（学びの４か条）を守っている」と答えた生徒の割合が Ａ：100% Ｂ：95%　以上 Ｃ：90%　以上 Ｄ：90%　未満	生徒調査（12 月） あてはまる(52.3)+少しあてはまる(39.8)＝92.1% 達成度：Ｃ R4 94.8%	昨年度(94.8%)よりも 2.7%ポイントが下落している。「ベル着・挨拶・私語禁止・学習環境の美化」の学びの４か条は、学びの基本であり、今後も 100%を目指して指導していきたい。予鈴として、チャイム前に音楽を流しているが、音楽が鳴る頃に生徒・教員ともに教室に入っていることが望ましい。時間を見て行動できるように、指導していきたい。
		②	クロムブック等を利用して、生徒の実状（習熟度等）や進路希望に応じた学習課題を与える。		授業外学習時間が 60 分以上の生徒の割合が Ａ：70%　以上 Ｂ：60%　以上 Ｃ：50%　以上 Ｄ：50%　未満	生徒調査(12 月) 120 分以上 R4 8.3%　R5 12.5% 60～120 分 R4 14.6% R5 26.1% 60 分以上合計 達成度：Ｄ	授業外の学習時間は、昨年度よりも増加している。要因としては、生徒の実態に応じて、課題を少しずつ出せたことによると考えられる。今年度から、自宅にクロムブックを持ち帰ることができるようになったため、持ち帰って課題に取り組む姿も見られた。 授業外学習時間については、学習に取り組む生徒とほとんど学習に取り組まない生徒が二極化しているので、授業外でほとんど学習していない生徒についても、意欲を高める工夫をしていかなければならない。
		③	各種研修や互見授業、授業参観等を通して、教員の授業実践力を高め、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図る。		「生徒同士の学び合いや発表等の機会を積極的に設けている」と評価する教員の割合が Ａ：90%　以上 Ｂ：80%　以上 Ｃ：70%　以上 Ｄ：70%　未満	教職員調査（12 月） あてはまる(52.6)+少しあてはまる(31.6)＝84.2% 達成度：Ｂ R4 76.2%	昨年度(76.2%)より 8 ポイント数値が改善している。要因としては、要領に基づいた三観点での評価をほとんどの教員が行うようになり、知識・技能に偏った指導にならないように授業を工夫した結果だと考えられる。今後も全教員が授業の在り方を点検し、改善を進めていかねばならない。校内研修の充実等、今後も改善策を図りたい。
					「授業がわかりやすい」と答えた生徒の割合が Ａ：90%　以上 Ｂ：85%　以上 Ｃ：80%　以上 Ｄ：80%　未満	生徒調査（12 月） あてはまる(54.5)+少しあてはまる(36.6)＝91.1% 達成度：Ａ R4 96.9%	昨年度(96.9%)よりも 5.8 ポイント数値が悪くなっている。今年度の特徴としては、基礎学力が不十分な生徒の割合が増え、高校の学習内容にうまく適合できなかった層が多いことも要因となっている。しかしながら、少しでも分かりやすい授業になるように授業のねらいと流れを可視化することや、ICT 機器を用いて視覚的に理解を促すことなど、今後も様々な取り組みを行い、数値の改善を図りたい。

学校関係者評価委員会の評価	・授業外の学習を促すことは、難しい部分もあるが ICT 機器を活用するなどして生徒のやる気を喚起していただきたい。 ・「授業がわかりやすい」との評価の低下が気にかかるので、グループ学習等を活用するなどしてわかりやすい授業を心がけていただきたい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・一人１台端末を活用するなどして、家庭での学習機会が増加するよう指導していく。 ・習熟度別授業を多くの教科で取り入れているので、生徒一人一人にきめ細かい指導を実践していく。

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2	キャリア教育の充実及び個に応じた進路指導の充実を図り、進路実現をめざす。	①	段階的に上級学校や関係機関・地元企業との連携を通して、生徒の進路意識を高めて早期に進路目標を設定することができるよう支援する。	［進路指導課］ 各学年	「進路講話、各種講座、企業見学会等が進路選択に役立っている」と答えた生徒の割合が Ａ：95％　以上 Ｂ：85％　以上 Ｃ：75％　以上 Ｄ：75％　未満	生徒調査(12 月) あてはまる(50.0)+少しあてはまる(39.8)= 89.8% 達成度：Ｂ R4 89.6%	今年度も進路情報企業から講師を招き、進路講話やガイダンスを数多く実施してきた。また、１年生を対象に上級学校や地元企業の見学会を実施した。インターンシップについて、２年生に実施し、参加した生徒は進路に関する意識が高まった。 来年度は、各種行事等を通して生徒が早期に進路目標を設定することができるよう支援する。
		②	進路ガイダンスとカウンセリングを充実させ、生徒個々の状況を把握し、支援する。また、生徒の希望・適性・能力に合致した進路指導に努める。		生徒の進路実現率が Ａ：100% Ｂ：95％　以上 Ｃ：90％　以上 Ｄ：90％　未満	生徒調査(12 月) (R5.12.28 現在) 69.0% 達成度：Ｄ R4 84.2%	３年生においては、多くの時間をかけ計画的に、学年・グループ・個人でキャリア教育を実施し進路決定を推進してきた。就職希望者の１０名全員、第一次希望の企業に採用内定した。今年度は就労支援事業所５名、四年制大学１名、看護専門学校２名（あわせて 27.6%）の希望者がいるため、１２月末の進路実現率は目標値より低くなっている。１・２年生は進路講話、企業ガイダンス等により、卒業時の進路について深く考える機会を与えることができた。 来年度は、進学では国公立大学１名以上合格、就職では地元企業を中心に就職先の早期決定に結び付けたい。

学校関係者評価委員会の評価	・頻繁に面談を行うなどして、生徒本人の意思を尊重した進路指導を行っていただきたい。 ・１２月段階で進路実現率が例年より低下しているので、個に応じたアドバイスを実践していただきたい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・担任と進路指導課との連絡を密にしながら、意思を尊重した進路指導をおこない、希望に応じた進路実現につなげていく。 ・卒業後の進路が明確に決まっていない生徒が増加傾向にあるので、早期の段階から進路目標を設定できるような働きかけを実践していく。

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3	自主自律の精神や自他を尊重する心を涵養し、心身ともに健康な生徒を育成する。	①	学校内外の日常生活の場面で、ＴＰＯをわきまえた判断と言動ができるように指導を行い、社会の一員としての自覚を促す。	［生徒課］ 生徒会係 生徒指導係	「自分から進んで、他の生徒や教職員、来客者等に挨拶をしている」と答えた生徒の割合が Ａ：90%　以上 Ｂ：85%　以上 Ｃ：80%　以上 Ｄ：80%　未満	生徒調査(12 月) あてはまる(42.0)+少しあてはまる(44.3)＝86.3% 達成度：B R4 85.4%	毎月クラスごとか、部活動ごとにあいさつ運動を実施していたが、その運動が日常生活に結びついているとは言えない。しかし、個別にしっかり挨拶できる生徒は昨年同様、多数おり、今後もあいさつ運動などを通して自ら進んで挨拶する雰囲気を学校全体で作っていきたい。来年度は、ボランティア活動など外部に出ていく活動などが積極艇に挨拶ができるきっかけになるように働きかけたい。
		②	基本的生活習慣確立のために年間４回「生活実態調査」を実施し、生徒一人ひとりの生活状況やいじめ等の悩みを把握し指導に活かす。	［生徒課］ 厚生係	「生活実態調査の結果を指導に活かし、生活改善につなげている」と評価する教員の割合が Ａ：100% Ｂ：95%　以上 Ｃ：90%　以上 Ｄ：90%　未満	教職員調査（12 月） あてはまる(47.4)+少しあてはまる(42.1)＝89.5% 達成度：D R4 81.0%	年４回、生活実態調査を実施した。５月、１１月の結果は、基本的生活習慣の確立、改善に繋がるよう、結果を生徒・保護者へ情報提供した。 １１月の調査結果から、平日の生活の改善、維持が見られる反面、休日や長期休業中の生活の乱れ（起床時間、運動習慣等）が依然として課題である。長時間のスマホ使用が“朝食の欠食や簡素化、起床時間の大幅なズレ”等に影響しているとも考えられるため、スマートフォン等の使い方、ルール等について意識が高められるよう引き続き働きかけていきたい。
		③	日常的に美化活動や環境衛生に努め、奉仕の心やものを大切にする心を養う。美化コンクールを通じて、他と協力し合うことの意義を確認し、自主性を育む。		「身のまわりの整理整頓を自主的に実践し、環境整備に努めている」と答えた生徒の割合が Ａ：90%　以上 Ｂ：85%　以上 Ｃ：80%　以上 Ｄ：80%　未満	生徒調査(12 月) あてはまる(53.4)+少しあてはまる(33.0)=86.4% 達成度：B R4 86.5%	日常の清掃活動は、真面目に取り組む生徒が多い。年２回の美化コンクールを通して、身の周りの整理整頓の意識をさらに高めていきたい。

学校関係者評価委員会の評価	・挨拶については社会に出ても必要なこととなるので、引き続き指導をお願いしたい。 ・身のまわりの整理整頓や環境整備について、家庭での働きかけも重要なので保護者と連携した指導をお願いしたい。 ・スマートフォン等などの利用について、いじめ等にもつながりかねないので丁寧に指導していただきたい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・学校での様々な活動においてこまめに挨拶の徹底を呼びかけていく。 ・整理整頓や環境整備については清掃活動などの時間をとおして、生徒の心に響くよう指導していく。 ・スマートフォン等などの不適切な利用によって陰湿ないじめ事案の発生も懸念されることから、その指導については十分に注意しながら指導していく。

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4	地域との連携・協働の取組を充実させ、地域に信頼される学校づくりを推進する。	①	地域イベントやボランティア活動等に積極的に参加し、地域貢献意識を高めるとともに、自己の在り方生き方を深く考える機会とする。	［生徒課］ 生徒会係 各学年	「地域に貢献する活動ができた」と答えた生徒の割合が A：90%　以上 B：80%　以上 C：70%　以上 D：70%　未満	生徒調査（12月） あてはまる(36.4)+少しあてはまる(34.1)＝70.5% 達成度：C R4 72.9%	昨年度よりも達成度は減少したが、地域イベントやボランティア活動は新型コロナウイルス感染症以前の状態に戻った感じがある。地域イベントやボランティア活動に積極的に参加し、生徒会を中心に活動をしているが、部活動に所属している生徒や特定の生徒に活動が偏らない取り組みにしている。生徒会からの積極的な呼びかけや、全校生徒が地域貢献活動に参加していると意識できるように次年度は声掛けをしていきたい。
		②	地域資源を活用した活動や学習を通して地域理解を深め、探究する力を育成する。	［教務課］ 総務課 進路指導課 各学年 各教科	「探究活動や探究学習に積極的に取り組んだ」と答えた生徒の割合が A：90%　以上 B：80%　以上 C：70%　以上 D：70%　未満	生徒調査（12月） あてはまる(46.6)+少しあてはまる(38.6)＝85.2% 達成度：B R4 83.9	数値は昨年度とほぼ同じである。今年度は町に協力をいただき、町の企業の方から話を伺うことができた。また、地域資源について元大学教授の方からも講演を頂けたのは成果である。一方、生徒の取り組みについては、情報を収集し、まとめる活動が多く、なかなかフィールドワークにつながっていないのが現状である。今後は町の協力を得ながら、生徒たちが体験的な活動ができるよう、取り計らっていきたい。
		③	ホームページや広報誌を通じて、本校の教育活動や生徒状況等の情報を発信する。	［総務課］ 各学年 各　課 各教科 部顧問	「配付物やホームページ等による情報が、教育活動の理解や生徒状況の把握に役立つ」と評価した保護者の割合が A：90%　以上 B：85%　以上 C：80%　以上 D：80%　未満	保護者調査（12月） あてはまる(62.3)+少しあてはまる(36.4)＝98.7% 達成度：A R4 96.5%	昨年度より 2.2%増加した。コロナ前に戻り、各行事の担当の先生方や部活動顧問の協力のもと、学校行事や、生徒の学校での活動の様子、校外でのボランティア活動の様子などを紹介するなど、タイムリーに情報を発信してきた。 また、メールでのお知らせに加え、急な予定の変更なども掲載してきた。今後も保護者にとって知りたい情報や生徒の活動の様子を迅速に発信していきたい。

学校関係者評価委員会の評価	・ボランティア活動にもっと積極的に参加できるような体制を構築していただきたい。 ・特定の生徒に偏らないボランティア活動となるように働きかけていただきたい。 ・探究活動は生徒同士のコミュニケーション力の向上につながっていると判断できる。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・地域イベント等を活用して、幅広くボランティア活動の周知を行っていく。 ・特定の生徒にボランティア活動の参加が偏らないよう生徒会からの呼びかけを増やしていく。 ・探究活動において、フィールドワークの場面を増やすなどして生徒達が能動的に情報収集できるようにする。

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
5	時間管理を意識しながら、組織的で効率的な働き方に努める。	①	限られた時間を意識した働き方を行う。若手教員に対するサポート体制を維持する傍ら、若手教員にも責任ある企画や運営に参加させるなど、業務の平準化を図る。	［各課主任］ ［学年主任］ ［若手研修ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ］	業務の割り振りや効率化を図ることができた、各課主任・学年主任が Ａ：90%　以上 Ｂ：80%　以上 Ｃ：70%　以上 Ｄ：70%　未満	教職員調査（12 月） あてはまる(20.0)+少しあてはまる(80.0)＝100.0% 達成度：A R4 88.9%	前年度と比較し大幅に改善している。全教職員が常に業務の平準化を意識してきた成果が出た結果であると思われる。今後も各主任を中心として業務の割り振りや効率化をさらに推進していきたい。
					計画的・効率的に業務を遂行することができた教員の割合が Ａ：90%　以上 Ｂ：80%　以上 Ｃ：70%　以上 Ｄ：70%　未満	教職員調査（12 月） あてはまる(68.4)+少しあてはまる(31.6)＝100.0% 達成度：A R4 88.9%	前年度と比較し大幅に改善している。日頃から計画的・効率的に業務を遂行しようとする意識が高まっているためと考えられる。各教員が連携を図り、さらに計画的・効率的な業務の遂行を推進していきたい。

学校関係者評価委員会の評価	・部活動指導の負担について、より軽減がなされる工夫を行っていただきたい。 ・「業務の割り振りや効率化」の調査において「あてはまる」が２０％となっており、その改善を考えていただきたい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・部活動指導については、原則土日のどちらかもしくは両日活動を休止するなどして、教員の負担軽減を図っていく。 ・各部署において各教員が連携を図りながら、多忙化の改善を推し進めていく。